

<日本テレビからの回答>

2014年2月20日

放送倫理・番組向上機構「BPO」
放送と青少年に関する委員会
委員長 汐見 稔幸 様

日本テレビ放送網株式会社
制作局 チーフプロデューサー
大野 彰作

貴質問書に対する回答書

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

貴委員会よりご質問いただいた2013年12月31日放送「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで！！絶対に笑ってはいけない地球防衛軍24時」(以下、「当該番組」)につきまして番組の制作責任者である当職よりお答えいたします。

当該番組は、通常、毎週日曜日の夜10時56分から30分のレギュラー番組として放送している「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」のスペシャル版で、レギュラー番組は1989年10月より放送を開始し、今年で25周年を迎える長寿番組です。

スペシャル版は、大晦日の“笑ってはいけないシリーズ”として2006年より放送を開始し、昨年で8回目の放送となります。このシリーズは、視聴者の皆様に大晦日に底ぬけに笑って年を越していただくという意図で制作しています。すでに8回目を迎え、視聴者の皆様には、当該番組の意図は十分に浸透し、理解していただいていると考えています。具体的には、視聴者の皆様と番組との一定の信頼感に基づいてナンセンスなギャグやお笑いを提供することで、NHK紅白歌合戦に次いで多くの支持をいただいています。

貴質問書に記された3つの場面に対する回答は以下の通りです。

1、演出意図

江頭2:50さんによる粉を使った芸は、彼が芸人として長年行っている持ちネタで、一昨年の大晦日スペシャル番組でも放送しております。昨年も年忘れの大晦日のスペシャル番組の中で、奇想天外なおしおきとそのリアクション芸として採用したものです。

また、ロケット花火をお尻で受け止める企画については、花火に安全性を高める改良を施した上で、まず、スタッフで安全面に配慮しながらテストを行いました。その結果、十分安全なものであることが確認できたため、プロの芸人であれば、そのリアクションも相当面白いものになるであろうとの観点から採用しました。なお、この場面で局部の露出は行っておりません。

59歳のベテラン制作スタッフが扮する「世界のヘイポー」というキャラクターによるコントは、レギュラー番組でも度々放送しており、赤ちゃんに扮するコントも過去に放送しています。また、ジミー大西さんが何かにチャレンジするという企画は、大晦日スペシャル番組では恒例のもので、この2人を組み合わせることで、今回の大晦日スペシャル番組ならではの笑いを視聴者にお届けできるのではないかと考えから採用しました。なお、この場面でのジミー大西さんのリアクションはあくまで演出によるものです。

2、演出についての議論・出演者（特に女性）に対する配慮

江頭さんの芸に対してリアクションをするのは、ゲスト出演者ではなく、長年レギュラー番組に出演しているココリコの田中直樹さんとし、江頭さんの芸の準備過程については、視聴者に不快な思いをさせない配慮として、江頭さんを衝立で囲い、おしおきを受ける田中さんがそれを実況する事で、状況を分かって頂くよう演出いたしました。さらに、実際に噴射する場面は、極力短めに放送いたしました。

花火の芸は、前述の通り、事前にスタッフが安全確認のテストを重ねた結果、派手な映像と音声にもかかわらず、出演者が絶対に危険な状態にならない、安全な仕組みを開発しました。そのうえで、タレントへの説明や、打合せも入念に行い、収録に臨んでいます。また、視聴者（特に子供）がマネをしてはいけないとの配慮から、

改良した花火で安全に配慮し行っています。マネをしないでください。

というスーパーを計2回入れております。

赤ちゃんコントは先述したようにレギュラー番組ですでに放送しています。今回、ジミー大西さんと同じ職場で働く保育士として女性がコントの設定上画面に映り込んでいますが、彼女は出演料をお支払しているプロフェッショナルの出演者です。当然のことながら、事前に収録内容を丁寧に説明し、内容を把握、了解いただいた上で出演いただいています。また、彼女に対し局部を見せたり、その反応を伺ったりといった性的嫌がらせを助長するような演出は一切行っておらず、彼女自身がおむつ交換に関わることはありませんでした。

3、22時から23時台に放送に至った経緯

民放連が放送基準解説書で示している青少年配慮時間は17時から21時であり、これに十分配慮した形で放送いたしました。

3つの場面とも、6時間という長時間の放送の中で、青少年への影響を配慮する必要があるため、どの時間帯に置くかはスタッフで議論を重ねました。その結果、できる限り、番組後半での配置がふさわしいと判断し、

22時29分(江頭さんの芸)

22時48分(花火の芸)

23時52分(赤ちゃんコント)

とすべて22時以降に放送いたしました。

4、社内共有、考査判断

当該番組企画内容は、通常通り番組制作担当者と編成担当者が協議の上、所定の手続きに則り進めましたが、具体的な場面については、まず、制作局内で議論され、放送倫理上で配慮が必要と考えられる場面については、逐一、コンプライアンス推進室考査部に相談をしました。具体的には、花火については事前に社内考査担当などに相談をし、安全面の配慮と字幕スーパーでの注意喚起をすることにいたしました。

実際の考査においては、平素より、青少年への影響を十分に考慮して「いじめを助長する表現になっていないか」「子どもが真似をしないか」といった観点からチェックをしていますが、今回指摘された場面はいずれもプロの芸人たちによる体を張った芸の範囲内であると判断されました。

なお、当社では、原則すべてのG P帯の収録番組を対象に、編成局の番組制作向上推進事務局が、第三者的な目で、視聴者ファーストの観点から事前下見を行い、番組側に意見をすることになっております。当該番組については、事前下見後、番組制作担当者が事前に編成・考査等、社内の関係各所と相談の上、慎重に配慮した上で制作しているとの判断に至りました。

5、公共性と「委員会の考え」に対する考え

放送に当たって私どもは、人を笑わず事に真摯に向き合い、“何を見せれば、何が起これば視聴者は笑ってくれるのか”連日深夜に及び会議で全スタッフが真剣に考えております。お笑い番組制作者として「我々の番組が多くの方々には笑いをもたらし、日々の生活に潤いを与えること」ができれば、これ以上の喜びはありません。

また、貴委員会の考えにある<人間の尊厳><公共の善>についても念頭に置いて「ガキの使いならではの“笑い”」を視聴者の皆様にお届けして参りましたが、今後とも、長年に亘って培った番組と視聴者の皆様との間の信頼感を大切に、視聴者の皆様に支持されるお笑いを追求して参ります。

貴委員会から今回のご質問を賜ったという事実に対し、番組スタッフ一同「視聴者目線と電波が公共財であること」について改めて強い意識を持って番組制作にあたります。

謹白